


特定非営利活動法人 日本免疫学会  
**2019 年度 前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**  
 研究発表報告書

申請者氏名	小林 伸英	会員番号	0035164	
申請者の所属・職名	金沢大学医薬保健学総合研究域医学系細菌学分野・博士研究員			
出席会議名	19th international congress of mucosal immunology			
発表論文タイトル	Sox8 is essential for M-cell maturation to accelerate IgA response in the gut			

実施結果:

7月16日から7月20日にかけてオーストラリア・ブリスベンにて開催された 19th international congress of mucosal immunology (ICMI 2019)に参加し、口頭発表を行った。ICMIは雑誌 Mucosal Immunology を出版する Society of Mucosal Immunology が主催し、2年に一度行われる粘膜免疫学に特化した国際会議である。ブリスベンはおもろくオーストラリア第3の都市であり、どこことなく昨年まで住んでいた横浜市を彷彿とさせるその景観は美しく、洗練された印象を受ける。国際学会はおろか海外に出るのが6年以上ぶりだったので成田空港の国際線ターミナルで外国に対する恐怖感がピークに達し恐慌状態に陥るかと思っただけ、いざ行ってみると人々も親切で不自由なく過ごすことができた。

さて、学会に関してご報告すると、招待講演では極めてレベルの高い研究について発表しており、トップジャーナルは当たり前といった印象であった。総じて言えることは、これからはシングルセル解析が(先端の研究を行うためには)スタンダードな技術となっており、これまでの雑多な細胞集団におけるトランスクリプトーム解析ではなく、個々の細胞の遺伝子発現から新たな現象・細胞集団を見出すことが、リンパ球に限らず上皮細胞や間葉系細胞においても当たり前になりつつあるという事だった。もちろん、シングルセル解析には高度な技術と、そして多くの研究費が必要とされると考えられ、そのどちらも有していない駆け出しのポストドクである私にとってはなんとも悩ましい現実を突きつけられる結果となったわけであるが。一方で、シングルセルトランスクリプトームを出すことに意義があるのか?と思われるようなデータもあり、結局のところ、技術やそこから得られるデータをどのように活かしていくかということに研究者の能力が集約されるのであろう。

Oral abstract presentation においては、もう少し演者が若く、多少は preliminary なデータも含む発表がなされており、それゆえに興味深い発表が多々あった。私はこの四月から細菌学を専門とする研究室に着任したことから、特に Mucosal infections のセッションでは病原体の感染と宿主応答について自身のテーマにつながる興味深い発表を聞くことができた。私自身の発表は19日の午前中、Gut homeostasis というセッションで行われ、一番大きなホールであったため少し緊張してしまった。学会のロゴには粘膜免疫の要であり私の研究対象である M 細胞が前面に押し出されているが、残念ながら学会で M 細胞について発表したのは私だけのようなのであった。発表自体は恙無く終えることができたものの、聴衆からの質問を励起できなかったことが反省点である。ただでさえマニアックな M 細胞について細胞生物学的なマニアックなデータで勝負してしまった。聴衆の interest を考えて発表内容を調整せよ、というのが元ラボのボスからの訓話である。

会期終了後、シドニー大学に立ち寄り、施設を見学した。設備もさることながら、英国調の建築様式が美しく、映画ハリーポッターの hogwarts 城と見紛うばかりであった。学問というのは本来このような場所で行うべきでは?と、街中の歴史ある校舎を捨てて土地を売り払い、山の方へと移転を続ける東北地方の母校を想った。余談であるが、オーストラリア滞在中は常にフィッシュ&チップス&ビールのような high fat かつ low fiber な diet で腹を満たしており、腸内細菌叢が dysbiosis に至ったようで腸の具合が悪かった。

本研究は慶應義塾大学大学院薬学研究科博士課程在学中に行われたものであり、長谷耕二教授をはじめ共に研究に携わった全ての人々に感謝いたします。末筆ではございますが、岸本忠三先生をはじめ、選考委員の諸先生に厚く御礼申し上げます。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。